

ギリシャの科学者の BPA に関する科学に耳を傾けなさい

BY STEVEN HENTGES, PH.D 2016 年 11 月 3 日 IN INDUSTRY

非常にたくさんの [ビスフェノール A\(BPA\)の科学的レビュー](#) が既に行われているので、これ以上レビューを行っても学ぶべきことはほとんどないと思うかもしれません。世界中の数えきれないほど多くの政府機関が、近年 BPA に関する科学のレビューを行ってきましたが、BPA の安全性についてはそれぞれの機関が同様の結論に至っています。しかし、もしこの世に新しいものはないとお考えだとしたら、それは間違っていないでしょうか。

最近、あるギリシャの科学者グループが、査読付き学術論文で [BPA の評価](#) を発表し、最も現実的な暴露シナリオによれば、「BPA に暴露しても深刻な害はない」と結論付けました。

これは必ずしも新しい結論ではありません。例えば、米国食品医薬品局(FDA)は独自の評価に基づき、[「BPA は安全ですか?」](#)という質問について「はい。」と明確に回答しています。同様に、欧州食品安全機関(EFSA)も「現状の暴露濃度では、どの年齢層(胎児、幼児、若者)の消費者に対しても [BPA は健康リスクをもたらさない。](#)」と結論を下しています。

ここで注目すべきは、彼らが結論に至った方法です。その結論とは、他人が行ったこと(結果)に基づいて実質的に事を進めたことです。そしてそのギリシャの科学者グループは FDA や EFSA、その他の団体の結論を再び積極的に肯定しています。

簡単に言えば、安全評価は化学物質への暴露量を推定し、政府機関の研究者等が設定した科学に基づく安全限界と比較します。実際の暴露量が安全限界未満であれば、その化学物質は現状に於いて安全であると判断されます。もっとたくさん説明すべきことはありますが、一言で言えばそれでおしまいです。

ギリシャの科学者等が行ったことは、いくつかの相補的なアプローチで暴露サイドに焦点を当てたことです。異なるアプローチによって得られた結果が一貫性を持っている事により、(それらの異なるアプローチ全てが以前 BPA に適用されたものではありませんが)、彼らの結論は特筆すべきものとなりました。

ギリシャの科学者等が適用したアプローチは以下の通りです。

- 全ての暴露源から BPA の総摂取量を推定し(つまり、人体にどれくらい入るか)、EFSA が設定した現行の安全摂取レベルと比較
- ヒトが体内から BPA を効率的に排出しているか(つまり、人体からどれだけ出るか)を見るため、尿中の BPA 測定値と EFSA の安全摂取レベルに基づく「バイオモニタリング等価(BE: Biomonitoring Equivalents)」として知られる閾値と比較
- 血中 BPA 濃度を推定し(つまり、体内にどのくらいあるか)、EFSA の安全摂取レベルに基づく「生物学的等価線量(BED: Biologically Effective Dose)」として知られている閾値と比較
- 血中 BPA 濃度推定値と「生物学的経路変更用量(BPAD: Biological Pathway Altering Dose)」として知られる閾値との比較

最後のアプローチは特に新奇なもので、閾値を計算するために米国環境保護庁(EPA)が生み出した最新の機密テストデータによるものです。ギリシャの科学者が述べているように、「単独及び集合 BPA 暴露シナリオのいずれかの場合にも、懸念理由はまったくありません。」もしあなたが同じ歌を歌っているコーラスに加わったなら、良い仲間がいて楽しいでしょう。 [Cole Porter と彼の歌詞](#)には申し訳ありませんが。

“

FDA は科学に耳を傾けているし、EFSA に耳を傾けています。

ギリシャの科学者すらも科学に耳を傾けているんです。

みんな耳を傾けましょう。BPA に関する [科学に耳を傾けましょう。](#)♪